令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
1	公明党 齊藤　博明	1．水害への備えについて（精度の高いハザード情報の構築と「防災まちづくり」の推進を目指して）	（1）　本年3月に更新された「洪水ハザードマップ」において、新たに示された情報と具体的な対象箇所を示されたい。
			（2）　公共下水道等の雨水排水施設を有する市町村のうち、内水ハザードマップを公表しているのは約12%に留まっている。本市において内水氾濫に対応するハザードマップを作成する予定は。
			（3）　要配慮者利用施設の所有者及び管理者に義務づけられている、避難確保計画の作成状況は。
			（4）　市内全域にわたる「まるごとまちごとハザードマップ」の実施を提案するが、市の見解は。
			（5）　今後、根本的な水害対策として、水害予防施策、いわゆる「防災まちづくり」が果たす役割は極めて大きいと考える。都市計画マスタープラン等への反映なども含め、部局間の連携や多層にわたる組織的対応が要になると考えるが、市の見解は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
2	未来創政の会 秋山　浩志	１．防災体制の整備について	総合計画が捉えた防災体制の整備について、人口減少や高齢化社会が進展化して地域力が低下している中で、消防団や自主防災組織の対象人口の減少から組織編制に支障が生じている事態が顕在化している。このため、災害に強い地域の万全性を高める観点から消防団や、自主防災組織、防災リーダーをどのように機能させる考えにあるか。
		２．地域防災計画について	防災の基本方針は「市民の命と暮らしを護ることにある」と考える。 地域防災計画にある防災の基本方針は、発災時の災害対応全般のことと理解しているが、改めてその内容を伺う。
		３．山林火災の対応について	最近全国で山火事が多発している。山梨県でも1月に笛吹市、甲府市で発生し、2月に大月市で大規模な山火事が発生している。本市の総面積のうち73.2%が森林であり、山火事が起こる可能性は否定できない。山火事が起こった場合、市としてどのように対応するか。
		４．市内小中学校の雷対策とマニュアル等の整備について	4月に奈良県で中学校の校庭に雷が落ち生徒が重体になった災害があった。これからの季節は雷の発生頻度が年間で最も高くなる。そこで市立小・中学校での雷対策はどのような整備にあるか。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
2	未来創政の会 秋山　浩志	５．地域の活性化について	大型商業施設のコストコが4月にオープンした。平日も駐車場は満車に近い稼働で盛況さが見て取れる。 令和6年第3回定例会の市長説明要旨で「オープン後はさらなる人の流れが生まれることから、交流人口の拡大を地域経済や観光の活性化など地域全体へ波及させることが最も重要であると考えている」と認識が示されているが、地域全体への現状の波及効果をどのように捉えているか市の見解は。
		６．南アルプス市中小企業及び小規模企業振興基本条例について	南アルプス市中小企業及び小規模企業振興基本条例の制定した背景と政策意図を伺う。
		７．市職員の待遇改善について	南アルプス市役所に勤務する正職員及び会計年度任用職員に支給されている地域手当について、4月から減額されたが実質賃金の低下となり、職員の生活に多大な影響を及ぼす事になる。このことについて市の見解は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
3	日本共産党 南アルプス市議団 河阪　悠	１．生活保護について	（１）　物価高騰の下、生活保護費は上がっておらず保護世帯の生活は大変な状況になっていると思うが、市内の生活保護の現状と認識を伺う。
			（２）　県による生活保護世帯に対する実態調査が行われた。市としても同様の調査をするべきだと考えるが、市の所見は。
			（３）　物価高騰の下、生活が大変な保護世帯に市として独自の支援をするべきだと考えるが市の所見は。
			（４）　生活保護申請の際の資産や自動車所有についての市の認識を伺う。
			（５）　生活保護世帯のエアコンの設置補助についての市の認識を伺う。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
3	日本共産党 南アルプス市議団 河阪　悠	２．生活困窮者自立支援について	（１）　生活保護法を適用するケースと生活困窮者自立支援法を適用するケースの判断基準を伺う。
			（２）　就職氷河期世代に寄り添った支援について現状と認識を伺う。
		３．国民健康保険税について	（１）　物価高騰の下、国保税は引き下げるべきだと考えるが市の所見は。
			（２）　子供の均等割を市が補填し負担を減らすよう求めるが、市の所見は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
4	新政南アルプス 飯野　久	１．南アルプス市の職場における女性活躍の基盤づくりについて	（１）　地元新聞に県の人事異動について106人の女性管理職登用の記事が掲載された。これら女性の占める割合は18.1％とのことである。 一方、県レベルでの採用における女性の割合は第5次男女共同参画基本計画による成果目標40％は超えている。市町村においての目標値は示されてはいないが年々上昇傾向との報告がある。 そこで、市内の企業を含めた女性活躍推進の基本的考え方について伺う。
			（２）　女性活躍推進法を解釈すると女性の意欲と能力を大いに発揮できる職場環境整備が重要であると考えられる。 そこで、女性活躍推進にあたり課題をどのように認識しているか。
			（３）　市役所において、女性の管理職への登用はどのような現状にあり、また今後どのように登用するか。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

代　表　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
5	躍進会 三枝守和	１．25人学級について	少人数学級の導入とともに、現場の先生や子供たちの希望が反映される教育現場が必要とし、教育現場の実情にあった専任の教育人材の配置、教育費の負担軽減、発達障害やひきこもり、不登校支援の充実を図り、教員の多忙化解消や処遇改善策の検討、これらの施策のもと、25人学級が導入された。南アルプス市の導入後の検証結果をどのようにとらえているか。
		２．芦安小・中学校について	豊かな自然環境の中で、特色ある教育活動や少人数によるきめ細かな指導が満たされている学校として、芦安小・中学校があげられるが、その現状は。
		３．義務教育学校について	山梨市は9年間の義務教育を一体化させることで、学習や生活環境の変化で不登校が増えるとされる「中1ギャップ」の解消のほか、教科担任制の導入やキャリア育成の充実を図り、特色ある教育の実現を狙い、今年度から試行的に取り入れ、効果を見極めた上で導入の可否を判断する考えとしている。南アルプス市においても同等な施策を考えてはいかがか、市の見解を伺う。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
6	公明党 河野木綿子	１．高齢者に向けたデジタル活用支援について	（１）　令和5年第1回定例会の一般質問で高齢者が安心して暮らせるデジタル共有社会を目指すため、総務省のデジタル活用推進事業を活用したスマホ教室の継続等について質問した。 今回、新規事業として「高齢者ＩＣＴ活用支援事業」でスマホサポーターを20人養成する補正予算が計上されたが、どのような人材活用を考えているか。
		２．本市の水道水の活用と給水スポットの設置について	気象庁協会のホームページによれば、観測史上1位の高温になった過去2年の夏と比較すると、地球の大気全体の昇温はやや落ち着く予想だが、過去2年には及ばないものの、気温は平年よりかなり高く、2025年も猛暑となるとあった。熱中症対策には水分補給が必須となる。南アルプス市は安全で美味しい水を目指しているが、水の魅力発信を積極的に展開する時と考える。そこで、 （１）　プラスチックゴミとなるペットボトル削減のためマイボトル持参を推奨している。ＳＤＧｓの上で給水スポットの設置は、プラスチックゴミ削減に通じると考える。ゴミの削減の観点からの所見は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
6	公明党 河野木綿子		（２）　本市の魅力を発信し沢山の来客を目指しているが、本市の水道水の美味しさを市内外に発信する時と考える。また、市外から訪れたお客様が市内を回遊した際、給水スポットの設置は本市の水を宣伝する上でも有効と考えるが、所見は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
7	かがやき２１ 名取常雄	１．農業支援政策について	農業従事者の高齢化により、水田農地が管理できない農家が20年以上前から増加傾向であり、特に2025年に団塊世代が全員75歳以上の後期高齢者になり農業従事者も加速度的に減少していくのが推計されている。こうした状況であり、また、米の高騰が続く中、市としての農業支援策、特に米の生産支援及び市の第3次総合計画の「豊かな地域資源で、魅力・活力あふれるまち」の実現の施策18:農林業の振興について伺う。 （１）　まちづくり指標の中で遊休農地比率は、現況値及び10年後の目標値が8.6%と記されているが、これは何ヘクタールになるか。
			（２）　現況値と10年後の遊休農地を比率で判断すると開発される農地が増加すればおのずと農地全体の面積が減るので比率で判断すると全体的に遊休農地が減っているとは判断できないと思うが、どのように考えているか。
			（３）　施策の方向性でＪＡと連携して遊休農地解消と活用に向けた取り組みを行います。としているがどのような取り組みを考えているか。
			（４）　地産地消の観点から遊休農地をＪＡ南アルプス市に市が補助する中で米を作ってもらい、作った米を市が買い取り、学校給食で使い、子供たちの給食の安全安心を守っていくような施策が取れないか。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
7	かがやき２１ 名取常雄	２．農業用水路、農業用道路の補修について	本市の農業用水路は、その多くが昭和30年代から地方病撲滅対策としてコンクリート化がなされ今に至っている。合併前の町村においては、農業用水路・農業用道路の受益者負担金を町村が支払っていた地域がある。この事から農地組合等を作らずに現在に至るため、今になって水路・道路の補修をしたくても受益者負担金を払うことができずに、現状の補修をしないままになっている。現状を市としてどう対応していくか。
		３．こどもまんなか、夢や希望が描けるまちについて	第3次南アルプス市総合計画の中にある施策17:青少年健全育成の推進の行政(1)施策の方向性では、体験活動や交流活動の機会の充実に取り組み、と記し、重点事業の中で青少年の体験活動及び交流活動の促進を上げている。コロナ発生から5年が経過する中で、地域における交流事業が中止となり、過去には、夏の交流事業として行政が行うソフトボールやソフトバレーなどがあったが、交流事業はなにもない状況である。地区域の育成会があいさつ運動や、ラジオ体操を行う程度で行政としての交流事業が見えてこない現状で、市は青少年の交流事業をどのように考えているか。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
8	日本共産党 南アルプス市議団 松野昇平	１．ＰＦＡＳ対策について	全国各地の河川や湧水、飲料水から有機フッ素化合物（ＰＦＡＳ）が検出されている。ＰＦＡＳ汚染から住民の健康を守るため、汚染実態のさらなる調査と対策が必要と考えるが、市の所見は。
		２．利用したくなる都市公園について	市総合計画における最上位の成果目標である「Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ（心豊かな暮らし）」の達成のためには、公園のさらなる機能向上に加え、多機能性を発揮した「利用したくなる」公園づくりが必要と考えるが、市の所見は。
		３．学習スペースの充実について	「勉強したくても、場所がない。」「利用している場所が、夏休み中にはすぐ満席になる。」という学生の声がある。快適な学習スペースの確保について、市の所見は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
9	新政南アルプス 保坂　健	１．横川樋門改修工事の進捗状況について	近年の異常気象による線状降水帯や短時間の集中豪雨等により、横川樋門上流域の横川、西川、八糸川での「溢水(いっすい)」による浸水被害が多発しており、樋門排水量の増加に向けての横川樋門改修は地域の悲願となっている。 このことについては、令和4年7月に市と県による「横川流域治水対策に関する確認書」が締結され、横川流域治水の着実な推進が図られるなか、横川樋門改修も事業化されているところである。 そこで、樋門改修工事の進捗状況について、市は、どのように把握されているか伺う。
		２．横川流域治水について	市と県による「横川流域治水対策に関する確認書」では、 1 氾濫もできるだけ防ぐ・減らすための対策 2 被害対象を減少させるための対策 3 被害の軽減、早期復旧・復興の対策 について、連携して取り組むことが確認されている。 具体的にどのような取り組みが行われてきているか伺う。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１０	新政南アルプス 清水　麻里	１．障がい者への防災対策と支援について	日本全国で大きな災害が度々起きている昨今、防災についての市民の関心は高い。先日、発達に特性のある子どもを持つ保護者から、万が一災害が起きた時、避難所での生活に不安感をもっていると相談を受けた。そこで今回は障がい者、特に発達に特性がある方への防災対策についての質問をする。 （１）　「指定福祉避難所」「協定に基づく福祉避難所」という2種類の福祉避難所がある。この2つの違いは。
			（２）　要配慮者がどのような流れで福祉避難所に避難することを想定しているか。
			（３）　令和6年3月議会の答弁で市では8カ所の障害者施設と福祉避難所の協定を結んでいるとあったが、障がい者数に対して少ないのではないかと感じる。見直しが必要だと考えるが、市の見解は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１０	新政南アルプス 清水　麻里		（４）　障がいを持つ子の保護者が、災害時の避難所について市のホームページで調べたが、一般の避難所についてしか記されておらず、有事の際は避難所への避難を諦めているという話を聞いた。実際に東日本大震災でも障がいをもった方が避難を諦め犠牲になった事例もある。 　誰にでも分かるような避難の流れをフローチャート形式で可視化してホームページ等で発信するべきだと考えるが、市の見解は。
			（５）　市ではあったかカード、ヘルプカード・ヘルプマークの普及に取り組んでいるが、それらの違いは何か。
			（６）　第5次南アルプス市障害者計画を見るとあったかカード・ヘルプカードについて障がい者の認知度が低いことがわかる。あったかカードが十分に周知されていない事は、万が一災害が起きた時に支援が必要な方に適切な支援を行うことができないのではないか。より市民へ周知・浸透させる必要があると考えるが、市の考えは。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１１	新政南アルプス 藤田亜由未	１．観光政策の戦略と推進体制の強化について	（１）　本市には、観光に関する個別の事業や施策は存在するが、長期的な目標や方向性を示す「観光ビジョン」は策定されていないと認識している。観光を「地域づくり」「経済振興」「人口対策」の観点から、将来的な方向性や戦略を明確にするため「観光ビジョン」を策定する必要があると考えるが、市の考えを伺う。
			（２）　本市の観光推進において、観光協会は現場の実務を担う重要な組織であるが、近年のニーズの多様化等をふまえると、従来の組織体制・役割では十分に機能していないと感じる。観光ビジョンの策定と併せて、観光協会の機能強化や組織の位置づけの再構築が必要であると考えるが、市の考えを伺う。
			（３）　市は、かねてよりｆｕｍｏｔｔｏ南アルプスの「道の駅」の登録について前向きな姿勢を示していると認識しているが、地域の観光・交流・情報発信の拠点としての構想や今後の展望、また、現在の進捗状況について伺う。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１１	新政南アルプス 藤田亜由未	２．市の情報発信について	ｆｕｍｏｔｔｏ南アルプス・コストコの開業や、住みたいまちランキング等で本市の賑わいの様子が多くのメディアで取り上げられたことにより、県内外から注目を浴びている。関係人口の増加を更に促すために、シティプロモーションのさらなる取り組みの強化が必要であると考えるが、市の考えを伺う。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１２	新政南アルプス 村松三千雄	１．金山沢川水力発電所の持続可能な維持管理に向けた取り組みについて	北岳の玄関口芦安の金山沢川沿いに、南アルプスの豊かな清流と急峻な地形を利用し、砂防堰堤を利用した「金山沢川水力電発所」を建設し、平成22年2月1日より運転を開始した。発電した電力は自家用電力として、近隣の南アルプス芦安山岳館、指定管理施設の温泉ロッジ・白峰会館で使用し、余剰電力は売電している。これらを踏まえて。 （１）　「金山沢川水力発電所」は運用開始してから15年が経過している。設備の老朽化による故障や気候変動による河川の水量変化により、発電量が低下していると聞いたことがあるが、維持管理コスト負担増の中、発電設備の維持管理の現状を伺う。
			（２）　第3次南アルプス市総合計画では、「金山沢川水力発電設備の維持管理を図る」と初めて明記された。そこで、持続可能な水力発電の維持管理を推進するためには、定期的なメンテナンスや設備の更新、環境への影響を考慮した運用など、設備延命化策をさらに進める必要があると考えるが、市の所見を伺う。
			（３）　本市は「小水力発電導入による温室効果ガス削減事業」として、発電した電力のうち3施設で消費した電力について、「オフセット・クレジット（Ｊ・クレジット）」を創出しているとのことであるが、その現状と効果について伺う。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１３	躍進会 相川　宗仁	１．人口減少と少子高齢化社会にむけた本市の取り組みについて	少子高齢化と人口減少は社会が直面する最大の課題の一つである。人口減少に伴い本市の歳入の減が伴うことから今より「選択と集中」による効率的な行政運営を進めていく必要があると思う。その観点での検証・評価も必要と考えるが基本的な考えは。
		２．労働力人口の確保対策について	今後労働力人口の減少が予測される中、誘致した企業に限らず当市全体の企業が労働力の不足が原因で衰退することがあってはならないと思う。労働力の確保について対策等の考えは。
		３．小学校高学年・中学生による職場体験授業の充実策について	労働力の確保といった観点において将来的なＵターンや定住を促進するためには、子供たちが「地元の仕事」や「地域の魅力」を早期に理解・体験することが極めて重要と考える。そこで、小学校高学年からの「地域理解」の導入と中学校段階での実践的職場体験の充実が必要と考えるが基本的な考えは。
		４．定住促進や人口流出の抑制について	若年層の都市圏への人口流出や地元離れが進む中で将来的なＵターンや定住を促進する必要があり、当市においても「若者世帯定住支援奨励金事業」を設けている。県の新たな支援事業の動向や当市の定住促進や人口流出抑制に対する考え方は。

令和７年　南アルプス市議会　第２回定例会（６月）

一　般　質　問　通　告　表

質問順位	質問者	質　問　事　項	質　問　要　旨
１４	躍進会 吉松　大樹	１．市の観光施策について	本市では、フルーツ観光や山岳観光を基軸として様々な観光施策を展開しているが、その進捗と今後の展望を伺う。